

■客員研究員研究

中央アジア諸国におけるコミュニティ研究
—ジェンダーの視点から—

(ウズベキスタン、タジキスタン、カザフスタン、キルギスの事例より)

大谷 順子

(財)アジア女性交流・研究フォーラム 客員研究員



財団法人 アジア女性交流・研究フォーラム

参考資料(中央アジアの地域コミュニティと女性たち)

カザフスタン



写真1 近代的なビルが立ち並ぶアスタナ
(アスタナ、2007年3月)



写真2 ウズベク民族を中心としたマハッラが存在する町サイラム (サイラム、2008年2月)

ウズベキスタン



写真3 マハッラの路地で遊ぶ子どもたち
(フェルガナ、2008年7月)



写真4 教員の大部分は女性で占められている
(グリスタン、2008年9月)

キルギス



写真5 ウズベク民族のマハッラでの国際婦人デー行事(オシュ、2008年3月)



写真6 キルギス民族を中心としたアパートから構成される地区で活動を行う女性評議会代表、中央(オシュ、2008年3月)

タジキスタン



写真7 ジャモアト内に設置されている健康の家(ルダキ地区、2008年4月)



写真8 女性医師や看護師との連携による健康教育(チルガジ、2008年5月)

謝辞

本研究にかかる調査の実施にあたり、各国の研究者や女性団体、NGO 関係者、教育機関関係者、医療機関関係者など、実に多くの方々からご支援・ご協力を頂いた。ここに心より感謝申し上げます。

(財)アジア女性交流・研究フォーラムからは本客員研究助成を頂き、それにより中央アジア数カ国のコミュニティにおける女性の諸活動の実地調査を行うことができた。奎尾雪絵前所長をはじめ、国連児童基金(UNICEF)タジキスタン事務所のスタッフの方々には 2008 年 4 月から 5 月の 2 か月にわたるインターンシップの貴重な機会を頂き、そのお陰でタジキスタンの地域医療機関とジャモアト、学校の連携による女性たちの活動実態を調査することが可能となった。

本研究で調査対象として挙げた、カザフスタン、ウズベキスタン、キルギス、タジキスタンにおける女性支援 NGO や地域コミュニティにおける女性委員会、各市の女性評議会、各国際機関などの方々には、現在の中央アジアの女性たちが置かれている現況や女性たちのさまざまな活動の実態についての生の声を聞かせて頂いた。

各国の女性に関する政策の動向というマクロの視点を踏まえながらも、地域コミュニティにおける女性の諸活動というミクロのレベルに焦点を当てた研究という性格上、ときに個々人の過去にまつわる悲惨な体験や政治的・慣習的にセンシティブな問題に触れなければならないこともあった。しかし、多くの方々自身が自身の住む地域コミュニティや都市、国、そして中央アジアの女性の地位や人権の向上のためにとインタビューに応じてくれた。現地調査にご協力頂いた多くの方々にここで厚く御礼申し上げたい。

ポスト・ソヴィエト期の中央アジア諸国における女性研究はいまだ萌芽的な研究に留まっており、とりわけ女性のコミュニティ活動についての研究はほとんどみられない。このような研究動向に対し、現在の中央アジア諸国の地域コミュニティでは地域の女性たちによるさまざまな活動が活発に展開されている。本客員研究による研究成果がわずかでも中央アジアの地域社会に還元され、そこでの女性たちの諸活動の一助となることを心より願っている。

〔著者紹介〕

大谷順子（おおたにじゅんこ） 大阪大学大学院人間科学研究科准教授

〔主要業績〕

大谷順子『国際保健政策からみた中国』（九州大学出版会、2007年）

大谷順子《通過国際衛生政策看中国》（中国世紀出版集团有限公司中国社科文献出版社（北京・香港）2009年）

大谷順子『事例研究の革新的方法』（九州大学出版会、2006年）

大谷順子《阪神大地震被災者の五年と高齢化社会—事例研究の創新性方法—》（中文版）（中国書店（福岡）・南天書局有限公司（台湾）共同出版、2009年）

Junko Otani “Older People in Natural Disasters”, Kyoto University Press & Trans Pacific Press: Australia, 2009

大杉卓三（おおすぎたくぞう） 九州大学大学院比較社会文化研究院助教

〔主要業績〕

大杉卓三『情報ネットワークで結ぶシルクロード—国際開発協力にみる現代中央アジア—』（中国書店、2009年）

大谷順子・大杉卓三「中央アジア・カザフスタンの保健医療と ICT 分野における社会開発：人間の安全保障と国連ミレニアム開発目標の観点から」『九州大学アジア総合政策センター紀要』創刊号 11-23 頁、2006年

河野明日香（かわのあすか）

筑波大学大学院人文社会科学研究所准研究員・九州大学大学院人間環境学府博士後期課程（平成21年4月より、日本学術振興会特別研究員 PD / 筑波大学大学院人文社会科学研究所）

〔主要業績〕

河野明日香「ウズベキスタンにおける地域共同体の教育的役割に関する研究」九州大学大学院人間環境学府平成20年度博士学位請求論文、2009年

Asuka Kawano, Takuzo Osugi, Junko Otani “Women’s Community Activities in Central Asia from Gender Perspectives” Journal of Asian Women’s Studies Vol.17, Kitakyushu Forum on Asian Women, 2008.

河野明日香「ウズベキスタンの学校における地域共同体（マハッラ）の教育—政府のマハッラ政策との関連で—」『比較教育学研究』第35号、日本比較教育学会、166-185頁、2007年

中央アジア諸国におけるコミュニティ研究—ジェンダーの視点から—
（ウズベキスタン、タジキスタン、カザフスタン、キルギスの事例より）
2009年3月

発行 財団法人アジア女性交流・研究フォーラム

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11番4号

北九州市大手町ビル3F

TEL:093-583-3434 FAX:093-583-5195

E-mail:research@kfaw.or.jp; <http://www.kfaw.or.jp>
